

醫學博士 土肥 慶藏 著  
日本  
皮膚病徵毒圖譜

第六卷

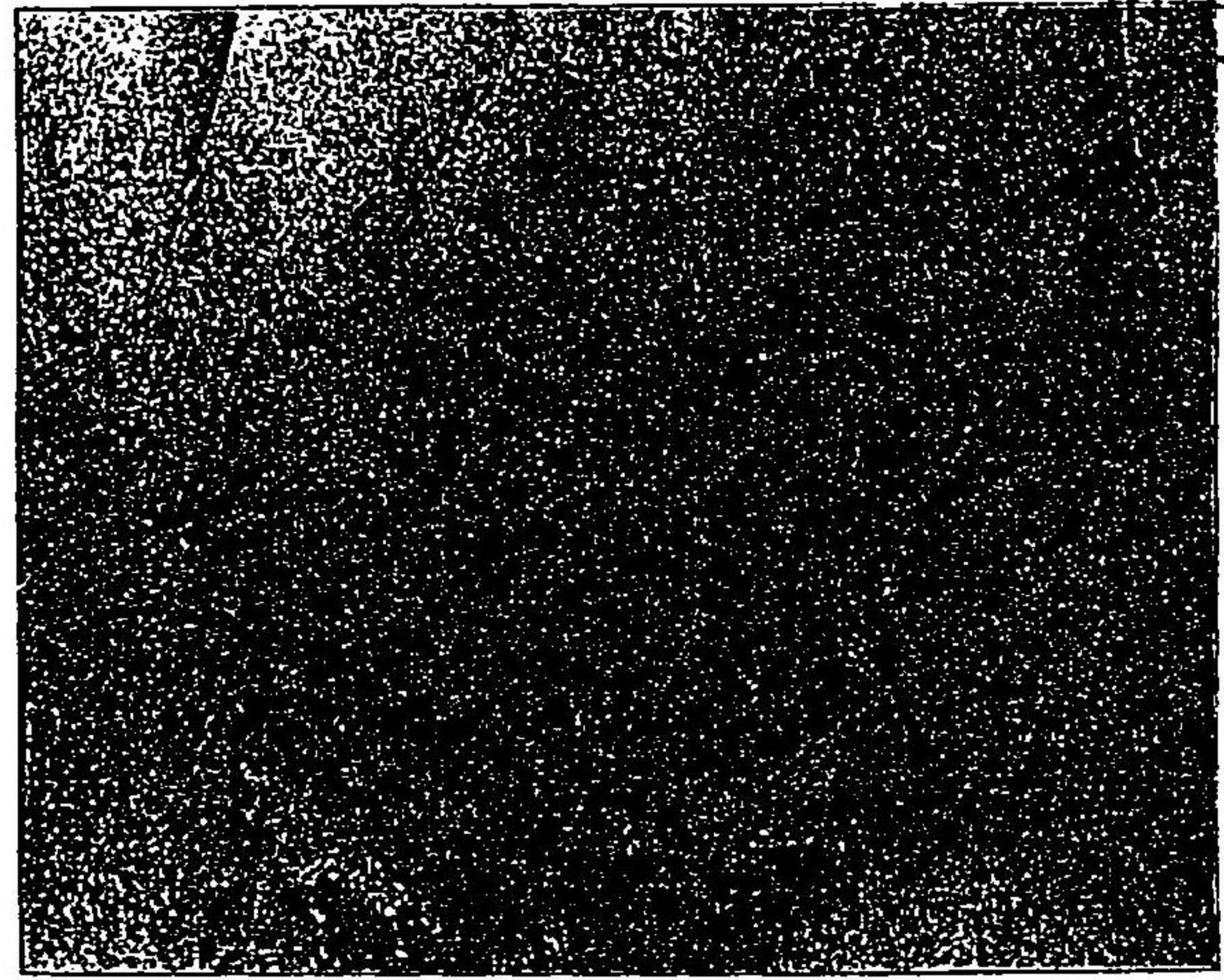


# 皮膚腺病 *Scrophuloderma*

**異名** 崩潰性皮膚結核 (*Colligative Hauttuberculose, Scrophulose, Scrophulose*), 結節潰瘍  
**性皮膚腺病** *Scrophuloderma tubero-ulcerosum*.

**定義** 腺病質ノ者ニ發スル特種ノ皮膚結核ニシテ柔軟ナル結節ヲ  
 作リテ終ニ破潰スルモノナリ、

**症候** 先ッ皮下ニ金柑乃至鳩卵大ノ結節ヲ生シ柔軟ニシテ能ク移  
 動スヘシ(腺病性護膜腫  
*Comme scrophuleuses*)蓋シ此



本表位者ノ鼠蹊部ヲ示ス

コトアリ、孰レノ場合ニ於テモ表面ノ皮膚ハ漸ク菲薄トナリ、暗紅  
 色ヲ呈シテ終ニ破潰シ、稀薄流動ニシテ乾酪様ノ塊片ヲ混スル膿  
 汁ヲ漏洩スヘシ(本表左鼠蹊部參看)、  
 此皮膚腺病性潰瘍(*Scrophuloderma ulcerosum*)ハ邊緣暗紅色或ハ汚穢  
 黒褐色ヲ帶ヒ、菲薄ニシテ深ク皮下ヲ侵蝕シ、其肉芽ハ弛緩シテ淡

(日本皮膚病學雜誌第四卷圖解)

紅汚色ヲ呈シ、斷エス少量ノ膿汁ヲ分泌シ、且ッ出血崩壞シ易シ、  
**經過** 本症ハ幼時及ヒ青年期ニ多ク、大抵數箇ノ潰瘍前後相接シテ  
 發生シ、廣ク附近ヲ侵蝕スヘシ、然ル後病竈ノ排除セラル、ト共ニ  
 漸次ニ肉芽面上ニ表皮ヲ被ムリ、終ニ癩痕ヲ結成スルモ、往々瘻孔  
 ノ久シク癒合セサルコトアリ、殊ニ臍、骨關節等ヨリ續發セルモノ  
 ニ於テ然リトス、  
 腺病性癩痕 (*Scrophulose Narben*)ハ形狀多クハ不規則ニシテ邊緣出

圖 二 第



吉川某十四歲時三十二年外來名冊五三三號

入シ、表面凹凸シテ太キ索條ノ縱橫スルヲ認ムヘシ、或ハ平滑ニシ  
 テ圓形又ハ橢圓形ヲ成スモノアリ、  
**部位** 頸側ニ最モ多ク、其他顔面、鼠蹊部、胸壁、腹壁等ニ來ル、  
**原因** 多クハ深部ノ結核ニ續發ス、余カ嘗テスクリーバ氏ノ許ニ於  
 テ實驗セル者ハ一ハ畢丸結核ノ續發症トシテ腹壁ニ生シ、一ハ痔  
 瘻ヨリシテ臀部ノ皮下ニ蔓延シ、兩者俱ニ皮膚廣ク汚穢黒褐色ニ

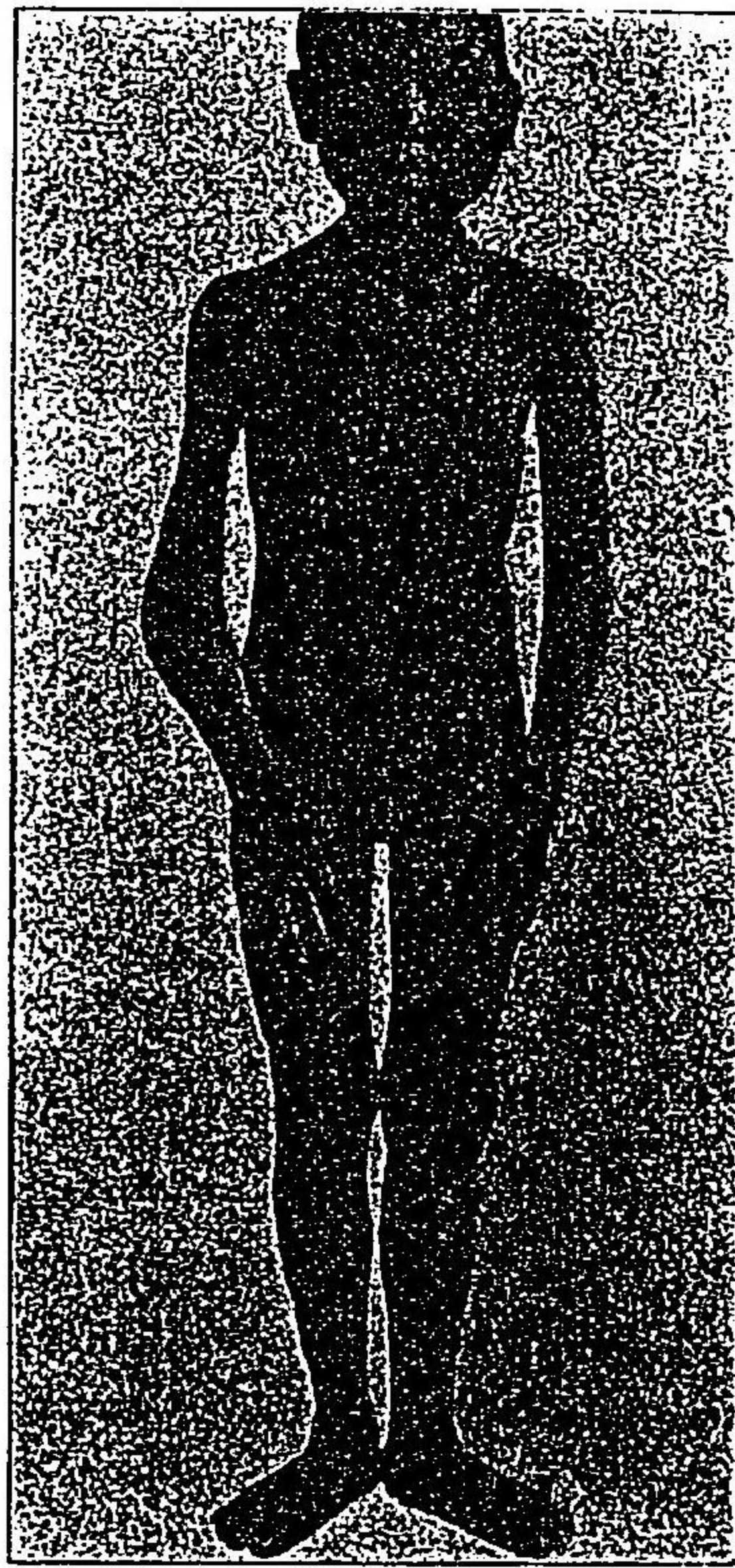




變シ、大小數多ノ瘻孔ヲ存シテ皮下ニ於テ互ニ相交通セリ、蓋シ亦一種ノ皮膚腺病ナリ、而モ本症ノ發生及ヒ蔓延ニ關係最モ深キモノハ淋巴管及淋巴腺ニシテ、例ヘハ頸側ノ腺病性潰瘍ノ如キハ概ネ頸腺ヨリスルモノナリ、

又本症ハ往々狼瘡ノ根蒂タルコトアリ、本表患者ノ右鼠蹊部及右足内踝ニ俱發セル乳頭狀狼瘡并ニ第一表ヲ參看スヘシ、殊ニ第一表ノ患者ノ如キハ皮膚腺病ノ診斷ヲ以テ入院セシメタルニ拘ラズ、其後ニ至リ漸ク狼瘡ノ形狀ヲ呈シタルモノナリ、此類ノ實驗尠シトセス、

第 三 圖



同上

**解剖** 眞皮及皮下結締織中ニ結核菌ヲ存シ、乾酪變性物及ヒ多少ノ結核菌ヲ證明シ得ヘク、又動物移植ノ成績ハ狼瘡ヨリモ遙ニ正確ナリトス、

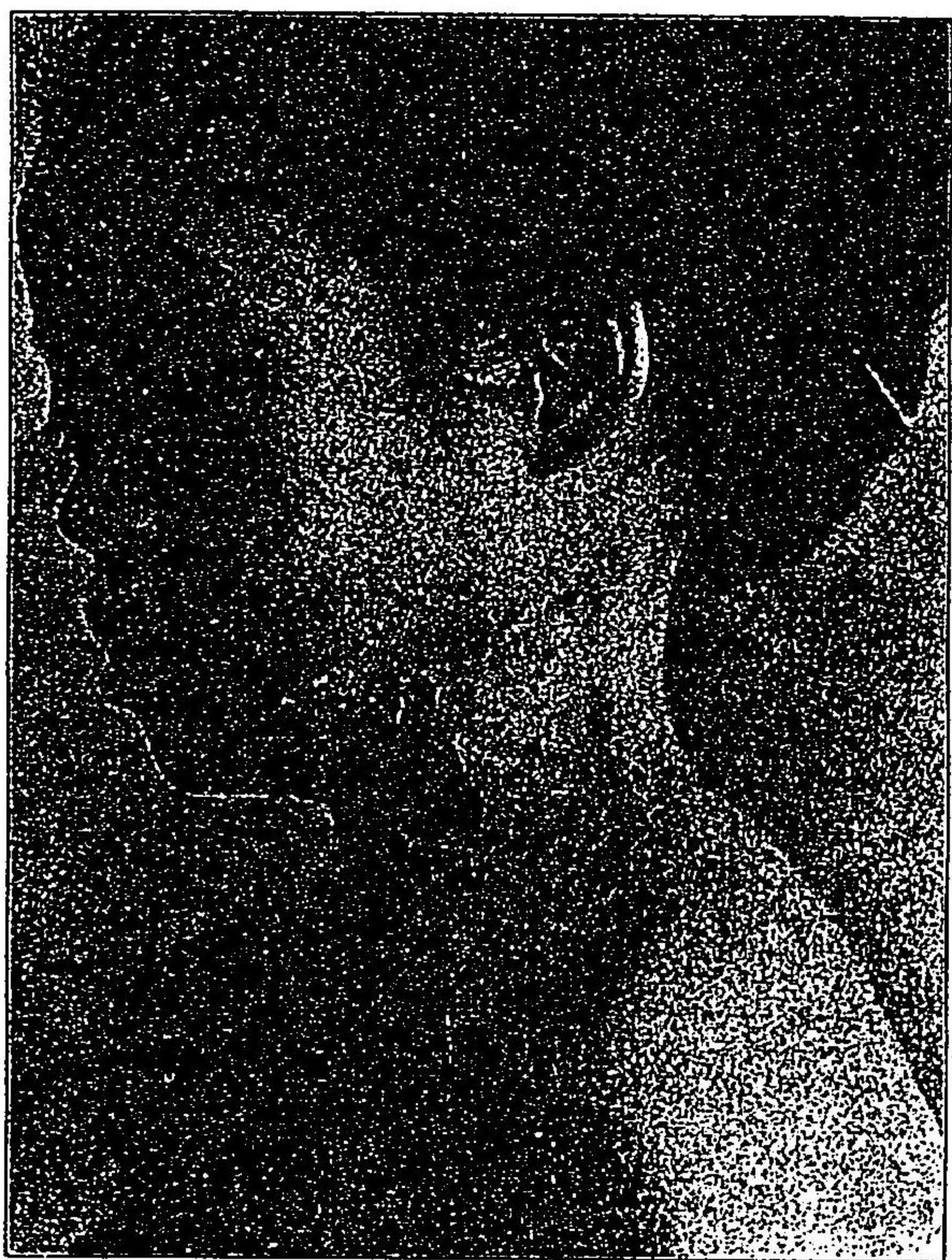
**診斷** 慢性ノ經過、炎症ノ缺如、潰瘍ノ特徵、腺病質、他器官ノ結核症等類症鑑別

- (一) 護膜腫 *Gumma* 護膜腫ノ結節ハ疼痛アリ、其潰瘍ハ邊緣ノ浸潤厚ク、皮下侵蝕ヲ缺キ、肉芽鮮紅ニシテ強固、經過亦比較的速ナリ、
- (二) 尋常性狼瘡 *Lupus vulgaris* 其瘻痕中ニハ必ス紅褐色ノ狼瘡疹

ヲ認ムヘシ、

- (三) 腺病性硬結性紅斑 *Erythema induratum scrophulosorum* 所謂バザン氏硬結性紅斑ハ通常下腿ニ來リ、皮膚ニ暗紅色扁平ノ硬結ヲ作り、壓迫スルモ疼痛セス、多クハ卒然收縮消散シ、稀ニハ破潰スルモ、其潰瘍ハ必ス硬結ノ一部ニ止マリ、且ツ其邊緣圓ク或ハ鋸齒狀ヲ成ス、
- (四) 放線狀菌病 *Actinomycosis cutis* 頸側ノ腺病性潰瘍ト誤認シ易キ

第 四 圖



十六歳ノ女子明治三十五年外米名簿八五二號

モ、瘻孔ノ周圍ニ於ケル浸潤遙ニ硬固ナリトス、尙ホ膿汁ヲ鏡照シテ細菌ヲ證明スヘシ、

**豫後** 自然ニ或ハ治療ニヨリテ全癒スヘシ、但シ其原竈ノ骨關節等ニ存スルモノハ淋巴腺又ハ皮下結締織若クハ眞皮中ニ於ケルモノヨリモ不良ナルヘキハ勿論ナリ、

**療法** 未タ軟化セサル結節ニハちげのーる、いひちをーるノ塗布沃



度加里軟膏、水銀れぞるびん、水銀硬膏、クレデー氏銀軟膏等ノ貼用ヲ  
試ムヘシ、

中心已ニ軟化セハ速ニ切開搔破又ハ摘出ヲ行ヒ、潰瘍ニ對シテハ  
遊離セル創縁ヲ切除シ弛廢セル肉芽ヲ除去スヘク、瘻孔アラハ亦  
必ス切開開放シテ其内壁ヲ搔爬スヘシ、

其他髓鞘關節囊、骨幹等ニ原發セルモノハ更ニ根本的手術ヲ要ス  
ヘキハ勿論ナリ、

同處療法ニ兼テテ全身療法ヲ施スハ最モ緊要ニシテ肝油、鐵、沃度  
へもぐろびん等ノ内服、食餌療法、人工鹽湯(一八%)、海水浴、溫泉浴  
等ヲ試ムヘシ、カペセル氏 *Kapesser* ノ加里石鹼塗擦法(加里石鹼一  
食匙ヲ溫湯ニ稀釋シ晚間十分時宛背面ニ塗擦シ然ル後入浴洗滌  
スルコト一週數回)モ亦皮膚ヲ強壯ニスト云フ、

處方

沃度加里 300

純沃度 500

單軟膏 500

右沃度加里軟膏

肝油 1000

磷 500

右一日一—三茶匙内服

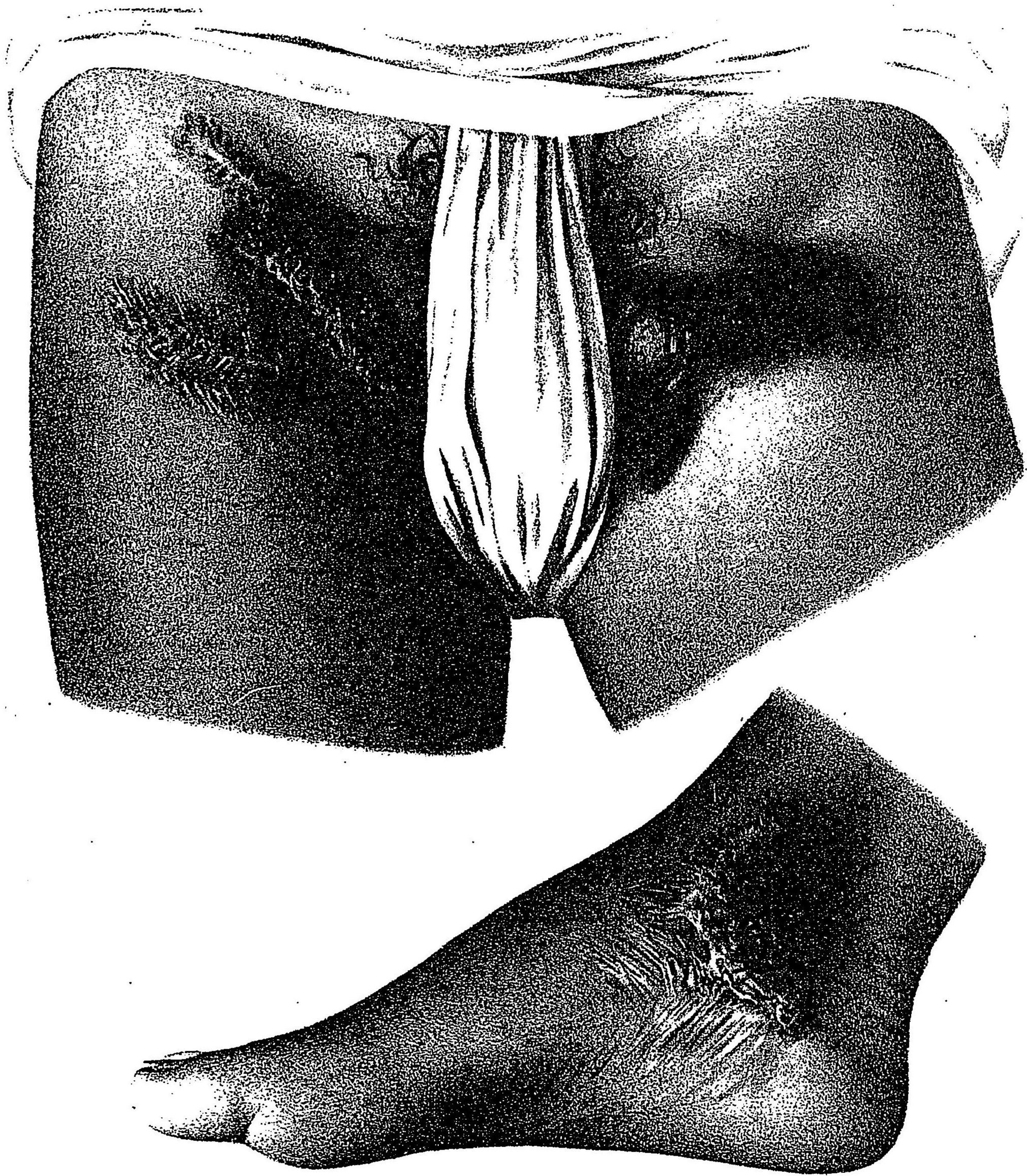
沃磁介 1—500

單介 200

水 600

右一日三回ニ分服





病腺膚皮  
(部 頭 風 后)  
 皮  
 瘡狼狀頭乳  
*Trichophyton*  
*Trichophyton papillaris.*



# レイノウ氏病 *Raynaud'sche Krankheit*

異名 對側壞疽 *Symmetrische Gangren* 對側壞疽性局處假死 *Asphyxia*

*localis cum gangrena symmetrica.*

定義 發作性ニ來ル一種固有ノ血行障害ニシテ、大抵對側ニ發生シ、終ニ局處ノ壞疽ヲ來スナ常トス。

症候 前驅症トシテ諸種ノ局處及全身異常厥冷、知覺鈍麻、神經痛紅斑或ハ濕疹ノ蔓延等ヲ呈シタル後ニ於テ、多クハ對側的ニ局處。沮

血。 *locale Synkope* ナ致シテ蠟白トナリ、厥冷シテ強直アリ、鍼ヲ刺ス

モ出血セス、脈搏ヲ觸知セス、知覺脫失シ、運動亦自由ナラサルニ至

ル、此狀態ハ一回又ハ數回發作性ニ反覆シタル後、早晚消散シテ治

スルコトアリ、或ハ漸次ニ増悪シテ局處。假死。 *locale Asphyxie* ナ招

キ、蒼白ノ部位變シテ暗紅トナリ、紫青色トナリ、鉛黑色トナル、而シ

テ此鬱血斑ハ往々廣ク手足ニ散點スヘシ(本表)

此局處假死ハ亦局處沮血ノ先驅スルコトナクシテ卒然發生スル

ヲ得ヘシ、且ツ稀ニハ障害ヲ遺サスシテ全治スルモ、多クハ頻回再

發シ、終ニ其一部ニ於テ局處。壞疽。 *locale Nekrose* ナ呈スヘシ、即チ圓

形扁平ノ斑點又ハ結節ヲ作り、若クハ水泡ヲ生シ、數時乃至數日ノ

後、黑色乾性ノ壞疽ニ陥ル、而シテ壞疽ノ大小深淺ハ一ナラスシテ

真皮ニ止マルモノアリ、皮下結締織ニ達スルモノアリ、或ハ骨質ニ

及ヒテ全部ノ脱落ヲ來スコトアリ、

自覺症トシテ著明ノ疼痛發作性ニ來リ、又壞疽部ヲ壓迫スレハ患者劇痛ヲ訴フ、

部位 四肢ノ外、耳輪、鼻翼、頰、頤、口唇又ハ軀幹ノ各部ニ發生シ得ヘシ、四肢ニアリテハ殊ニ指趾ニ多ク、其腹面ハ壞疽ノ最モ生シ易キ處ナリ、之ニ次クハ手足ノ背甲、掌、蹠、及ヒ外縁ナリトス、

(日本皮膚病學雜誌第十五卷附録)

原因 審ナラス、重症ノ中毒及ヒ傳染病後ノ衰弱、中樞及末梢神經ノ

疾病殊ニひすてり、微毒等ニ歸スル者アリ、一定セス、

本表患者、女子齡二十歳、東京ノ產明治三十五年入院、名簿四五五號、冬期常ニ凍折ニ罹リシガ十七歳ノ時、兩脚厥冷變色シテ潰瘍ヲ生シ、某々外科病院ニ於テ兩足

ノ切斷ヲ勸メラレシガ患者怖レテ去テ熱海ニ入浴スルコト三月、病狀益々増悪ス、後テ日本赤十字社病院ニ移リ、數回ノ水銀療法ヲ受クルニ至リテ輕快セシガ、橋

本博士ノ紹介ニヨリ、我病室ニ移リ、更ニ局處療法ニ兼テ驅微法ヲ行ヒ僅ニ現狀ニ回復セルモノナリ、

診斷 對側性、發作性ニ來ル局處ノ沮血、鬱血、潮紅竝ニ壞疽、類症鑑別

(一) 硬結性紅斑 *Erythema induratum (Bazin)* 腺病質ノ者ニ於テ主トシ

テ下腿ニ於テ見ル所ノ紅斑ニシテ、皮膚中若クハ皮下層ニ達スル硬結ヲ作り、暗紅紫色ヲ呈シテ徐々ニ周邊ニ移行スルモ、壓迫

ニヨリテ殆ト疼痛ヲ感セス、又其潰瘍ハ必ス皮下侵蝕ヲ呈ス、

(二) 凍傷 *Congelatio* 局處ノ貧血及ヒ鬱血ノ狀態稍相似タルモ、發作性ヲ缺ク、

(三) 慢性麥奴中毒 *chronische Ergoinvergiftung* 連續性ニ發生シ發作性ナラス、且ツ痙攣強直等ノ中毒症狀ヲ伴フ、

豫後 先驅セル疾病ノ種類ニヨリテ同シカラス、神經系疾病ニ基クモノハ重シ、

療法 勉メテ神經系ノ興奮ヲ避ケ、煙酒ヲ禁シ、海濱又ハ高山ニ轉地セシメ、滋養療法、強壯療法(鐵劑、亞砒酸等)ノ内服ヲ行ヒ、又驅微法ヲ

試ムヘシ、局處ニハ溫浴溫罨法ニ兼テ輕按摩ヲ施スヘシ、壞疽ニ對シテハ外科的療法ヲ要スヘシ、





病氏ウノイレ  
*Raynaud'sche Krankheit.*



# 黒色表皮腫

*Acanthosis nigricans.*

異名 乳頭狀色素性營養障害症 *Dystrophia papillare et pigmentaria*

(Darier)

定義 乳頭増殖ト色素形成ト有スル限局性對側性皮膚病ニシテ、

其部位一定シテ移動セス、且多ク内臓ノ悪性腫瘍(癌)ニ續發ス、蹠、口

症候及部位 先ツ項頸ニ始マリ、次テ腋窩、肘窩、手指、腹壁、肛裂陰部、足

角等竝ニ口舌ノ粘膜及結膜ニ於テ色素増殖シテ漸ク漆黒色ニ變

ス、之ト同時ニ患部ノ皮紋(皮溝)及皮丘著明トナリ、皮丘ノ隆起スル

ニ從ヒテ、皮膚ノ表面高低不平トナリ、大小ノ乳頭ヲ作り、深淺ノ皮

溝ニヨリテ分界セラル、乳頭腫ノ大ナルモノハ胡桃ニ過クルコト

アリ、著色モ亦著シ、

間、全身ノ皮膚初メヨリ多少汚色ヲ呈スルコトアリ、或ハ顔面軀幹

肢節等ノ健全部ニ於テ別ニ軟性纖維腫、疣贅又ハ母斑ヲ生スルコ

トアリ、

乳頭腫ハ角層ニ於ケル變化少ナキカ爲ニ其質常ニ柔軟ナリ、

自覺症ナシ、或ハ痒痒アリ(筒井氏)、

經過 本症ハ概テ胃、子宮、乳房等ノ癌腫ノ如キ重患ニ併發スルカ故

ニ其經過モ亦之カ爲ニ左右セラル、スピツナカ氏 *Spitschka* 及ホダラ

氏 *Hodara* ハ悪性腫瘍(子宮、乳房)ノ切除ト共ニ皮膚ノ症狀一旦消滅

シ、其再發ニ從ツテ復タ萌生スルヲ實驗セリ、

病理 本症ハ千八百九十年ヤノフスキイ氏 *Fanowsky* 及ボリナエ

氏 *Politzer* ノ始メテ報告セルモノニシテ、我國ニテハ明治卅四年

(東京醫學會雜誌參照板津七三郎氏ノ報告)本表ニ次テ、筒井八百珠

氏ノ一例アルノミ、俱ニ胃痛症狀ヲ呈セリ、

原因ハ未タ密ナラス、トマツソリイ氏 *Tomassoli* ハ一種ノ自體中毒

(日本皮膚病學雜誌第三十四卷四號)

トナシ、ダリエー氏 *Darier* ハ腹部交感神經叢ヨリ發スル營養神經

ノ機能障害トナスモ、素ヨリ臆斷ニ過キス、老幼男女ノ差ナク又遺

傳ヲ認メス、

解剖 乳頭著シク増殖分岐シテ、網狀層ノ肥大最モ著シ、色素増殖ハ

主トシテ表皮基底層ニ於テス、

診斷 皮膚ノ黒變、乳頭腫ノ發生部位、

類症鑑別

(一)色素性乾皮症 *Xeroderma pigmentosum* 主トシテ裸露部ヲ侵シ、皮膚

赤色ヲ帶ヒ、雀斑又ハ黒痣ヲ生シテ直ニ惡性腫瘍ニ變化ス、

且ツ專ラ少時ニ發生ス、

(二)魚鱗癬 *Ichthosis* 先天ニ發生シ伸側ヲ侵ス、

(三)ダリエー氏病 *Darier'sche Dermatose* 部位外觀相似タルモ、丘疹ヲ

以テ始マリ、各箇健全ノ皮膚ニ界セラレテ、本症ノ如ク全面ノ乳

頭一樣ニ變化スルモノニ非ス、又痂皮ヲ生ス、

豫後 多クハ上記併發病ノ爲ニ斃ル、モノトス、

療法 亞砒酸ノ應用效ナシ、早ク病根タル惡性腫瘍ノ切除ヲ試ムヘ

シ、





腫皮表色黑  
*Acanthosis nigricans.*



# 色素性乾皮症

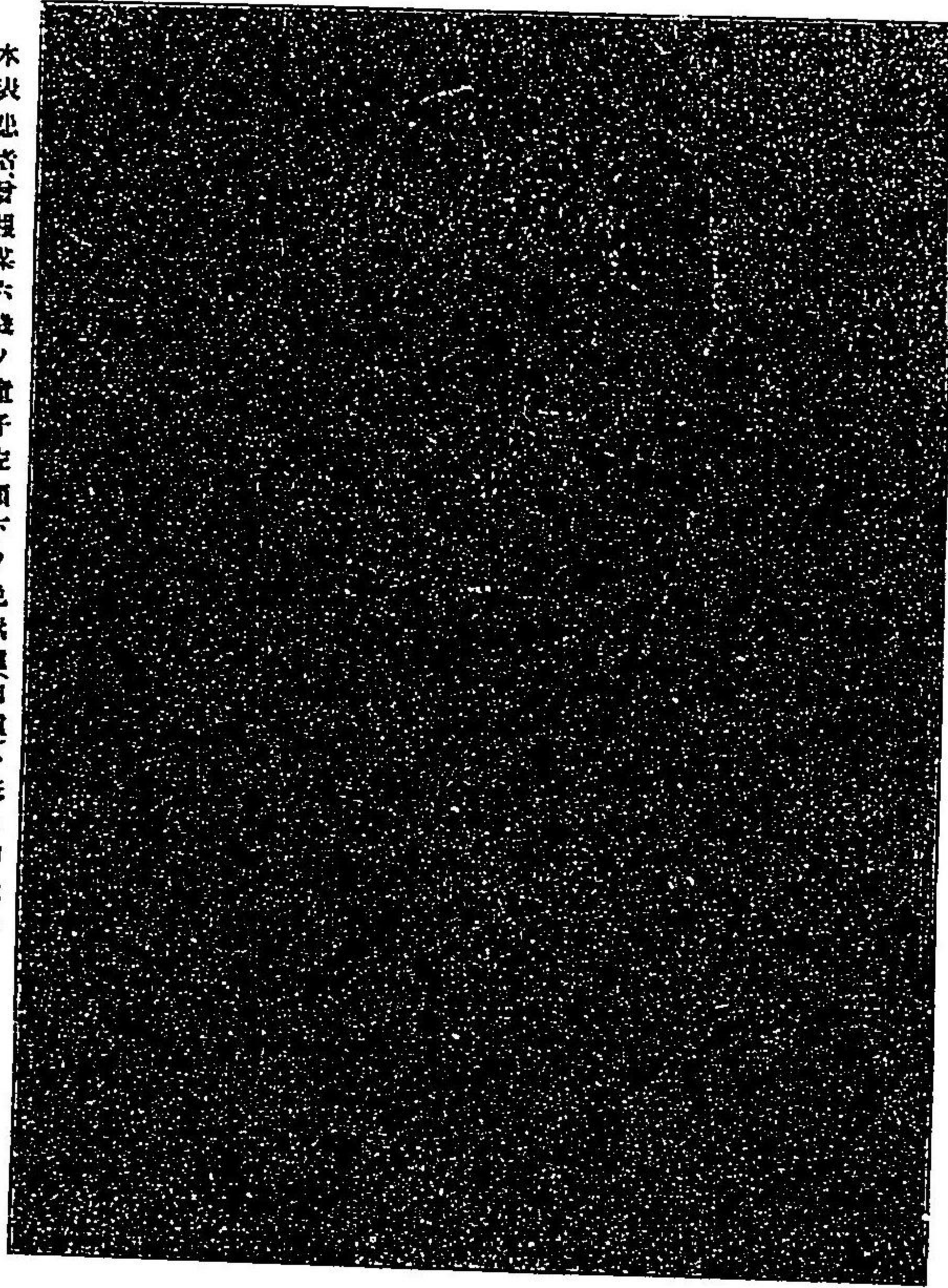
*Xeroderma pigmentosum* (Kaposi).

異名

*Liodermia essentialis cum melanosi et teleangiectasia* (Neisser), *Melanosis lenticularis progressiva* (Pick), *Angioma pigmentosum et atrophicum* (Taylor).

定義 幼年ニ發生シ、色素斑、血管擴張及皮膚萎縮ヲ兼キ、多クハ悪性腫瘍ヲ續發シテ死ヲ致スモノナリ、  
症候 生後一二歳ノ間ニ於テ偶然身體ノ裸露部ニ當リ散漫性ニ或

第一圖



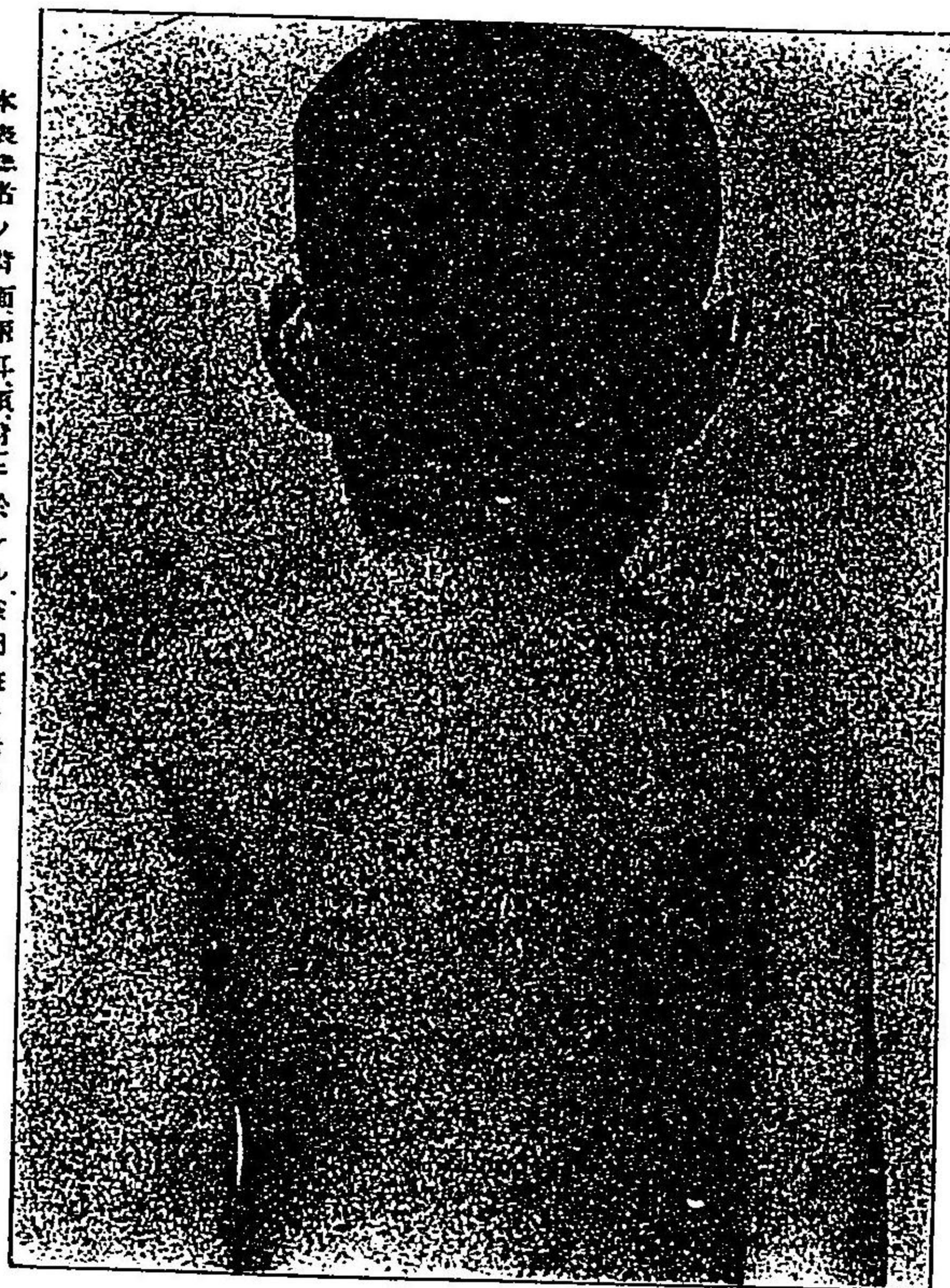
本患者背脊部ニ於テ六歳ノ童子左額下ノ色素斑内腫ハ既ニ切除セリ

ハ斑點狀ニ日光紅斑 *Erythema solare* ナ生シ、間、結膜炎ヲ兼發シテ羞明アリ此紅斑ハ數日ニシテ落屑ヲ來シテ消褪スルモ、夏日斑或ハ雀卵斑ノ如キ點狀乃至豆大ノ色素斑ヲ新ニ同部位ニ發生スベシ、  
次ニ此色素斑ノ間ニ於テ紅點密生シ、近ク之ヲ諦視スレハ其星芒狀或ハ線狀ノ血管擴張ヨリ成レルヲ認メ得ヘク、遠クヨリシテ之

(日本皮膚病雜誌圖譜第三十六表圖解)

ヲ望メハ皮膚汎ク紅褐色ヲ呈ス、  
之ト同時ニ癩痕様ノ白色斑ヲ生シテ其間ヲ點綴シ、尋テ患部ノ皮膚遍ク萎縮シテ菲薄トナリ乾燥落屑シ、或ハ細皸ヲ生シ或ハ緊張シテ平滑トナル殊ニ裂口ノ附近ニアリテハ癩痕様白斑ノ増加ニ因リ眼瞼ハ外翻シ、準頭ハ尖銳トナリ、口圍ハ狹小トナルコトアルヘシ、  
此他皮膚抵抗力ノ減弱セルカ爲ニ龜裂潰瘍濕疹等ニ罹リ易ク、又

第二圖



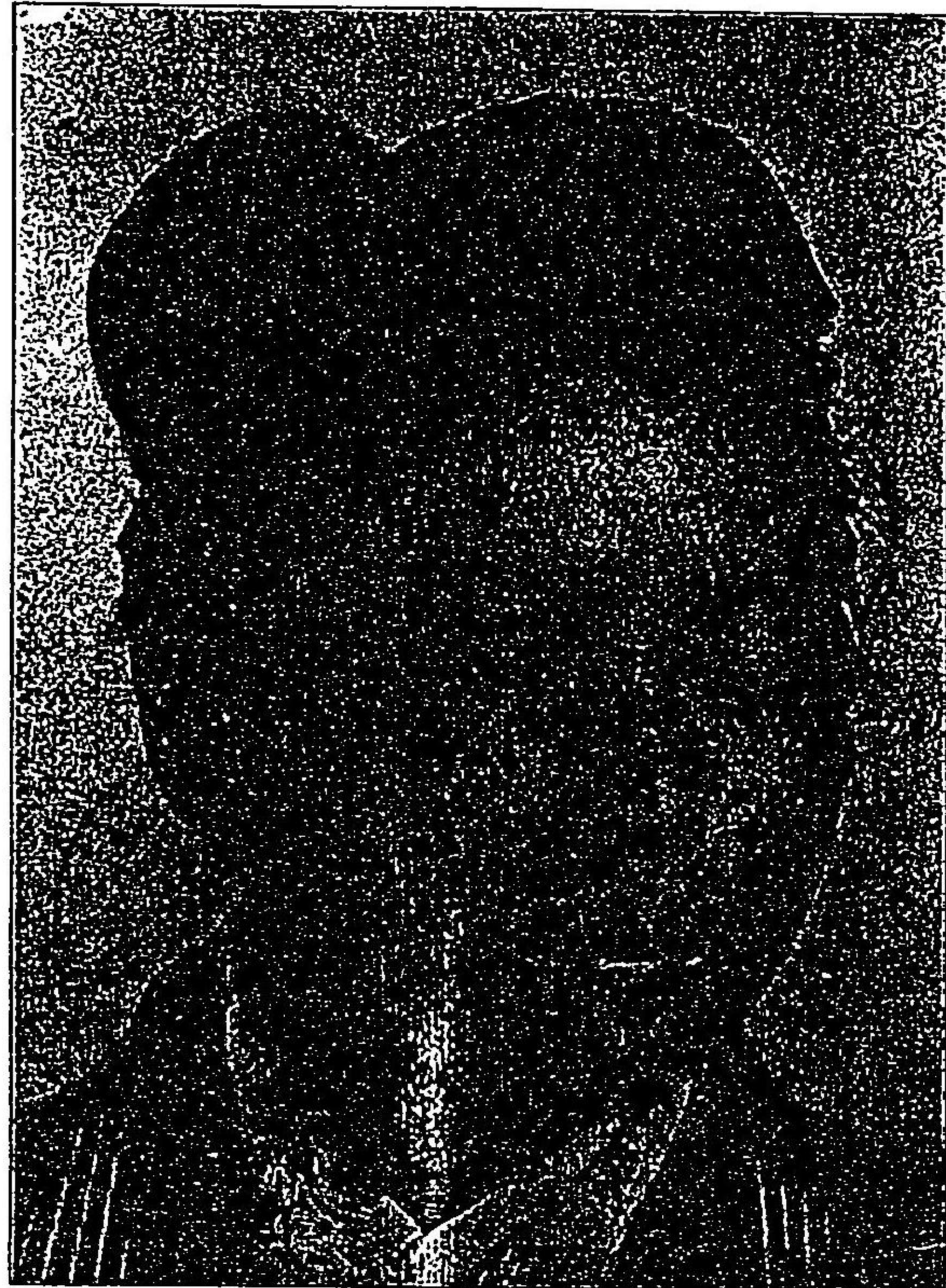
本患者ノ背脊部ニ於ケル雀卵斑ヲ示ス

病勢ノ進行ニ因リ色素斑漸ク増大隆起シテ黑痣狀ヲ成シ、遂ニ悪性腫瘍(肉腫、癌腫、内皮細胞腫、外膜腫、或ハ混合腫)ニ變スルニ至ル、  
部位 常ニ顔面、耳朶、手甲、足甲ニ來リ、更ニ項部、背胸ノ上方、前臂、下腿等ニ蔓延スルコトアリ、其境界ハ割然タラスシテ健康部ニ向ツテ漸ク消失ス、  
粘膜炎ハ侵害セラレサルヲ常トスルモ、我一例(第四圖)相澤某ニアリ



テハ眼瞼結膜及ヒ口唇ニ於テモ亦萎縮ヲ認メリ、  
經過 幼少時ニ始マリ、三四歳ニシテ已ニ悪性腫瘍ノ爲ニ夭死スル  
者アリ、或ハ十年、二十年ノ後ニ斃ル、者アリ、稀ニハ高齢ニ達ス、  
我國ニ於ケル本症ノ實驗ハ明治二十七年筒井八百珠氏ヲ以テ嚆  
矢トス、次ニ明治三十二年余ノ報告第三圖出テ、ヨリ、中山森彦氏、  
淺山郁太郎氏、角田隆氏等、并ニ我教室ヨリハ旭憲吉田中友治(第四

第三圖



荒山某女十七歳明治三十一年外來名簿二七四號

圖(大野豊太第五圖諸氏ノ報告アリ、  
病理 一種ノ皮膚萎縮症ニシテ、ヤダスソン氏 *Yadassohn* カ早發老衰

症 *Senilis praecox* トナシテ之ヲ老人萎縮症ト同視セント欲スル  
モノハ寔ニ所以アリ、岡村龍彦氏及ヒ田中友治氏ハ本患者ノ血液  
ヲ検査シテ赤血球ノ減少ヲ證明セリ、本症ハ往々同胞殊ニ同性數  
人ニ發生ス、蓋シ皮膚ニ先天的素因ヲ存スルモノニシテ、日光ハ明  
カニ本症ノ誘因タルモノナリ、

診斷 部位(裸露部)年齢(幼少時)夏日斑雀卵斑黑痣ノ如キ色素斑并  
ニ悪性腫瘍ノ發生、血管擴張ニ因ル潮紅、癢痕様白斑及ヒ皮膚萎  
縮、  
類症鑑別

(一)酒皰 *Rosacea* 血管擴張ニ因リ顔面潮紅スルモ、色素斑ヲ伴ハス、  
却テ痤瘡ヲ混ス、

第四圖



相澤某二十歳ノ男子明治三十五年十月入院名簿四四五號

(二)鞏皮症 *Sclerodermie* 一部若クハ全身ノ皮膚萎縮シ、硬ク緊張シ  
テ蒼白色ヲ呈ス、間、亦色素ノ増殖ヲ見ルモ多ク散漫シテ夏日斑  
ト同シカラス、

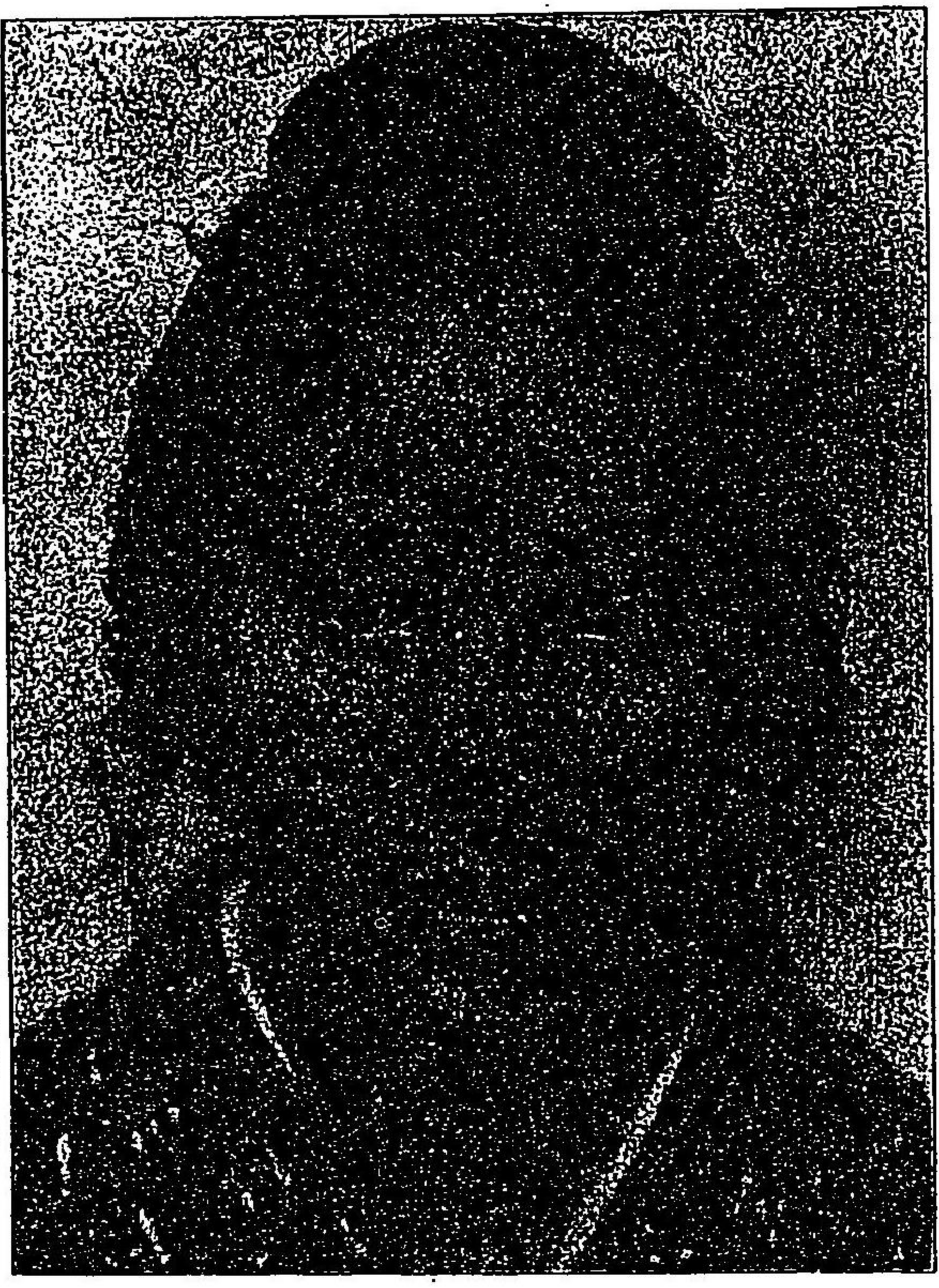
(三)夏日斑及雀卵斑 *Ephelides et Lentiginos* 皮膚ノ潮紅ト萎縮トヲ缺  
ク、

豫後 多クハ不良ニシテ、悪性腫瘍ヲ續發シテ、悪液質ニ陥リ或ハ轉  
移ニヨリテ早ク死ヲ招クコトアリ、



療法 患者ヲ紅室中ニ居ラシメ若クハ紅色ノ軟膏ヲ塗布シ以テ日  
 光ノ作用ヲ寬フセルモ奏效明ナラス、腫瘍ハ其未タ著シク増大セ  
 ヲルニ當リテ之ヲ切除シ、以テ患者ノ生命ヲ延長スルコトヲ謀ル  
 ヘシ、其已ニ蔓延シテ外科的手術ヲ施シ難キモノニハ腐蝕ヲ行フ  
 ノ外ナシ、

圖 五 第



田中某女二十三歳明治三十七年外來名簿二五九四號右鼻翼ニ癌腫ヲ生ス

處方

亞砒酸

1g

酒精

依的兒

各七至一四〇〇

右塗布(ナエルニイ、ツルンツエツク兩氏)





症皮乾性素色  
*Xeroderma pigmentosum.*



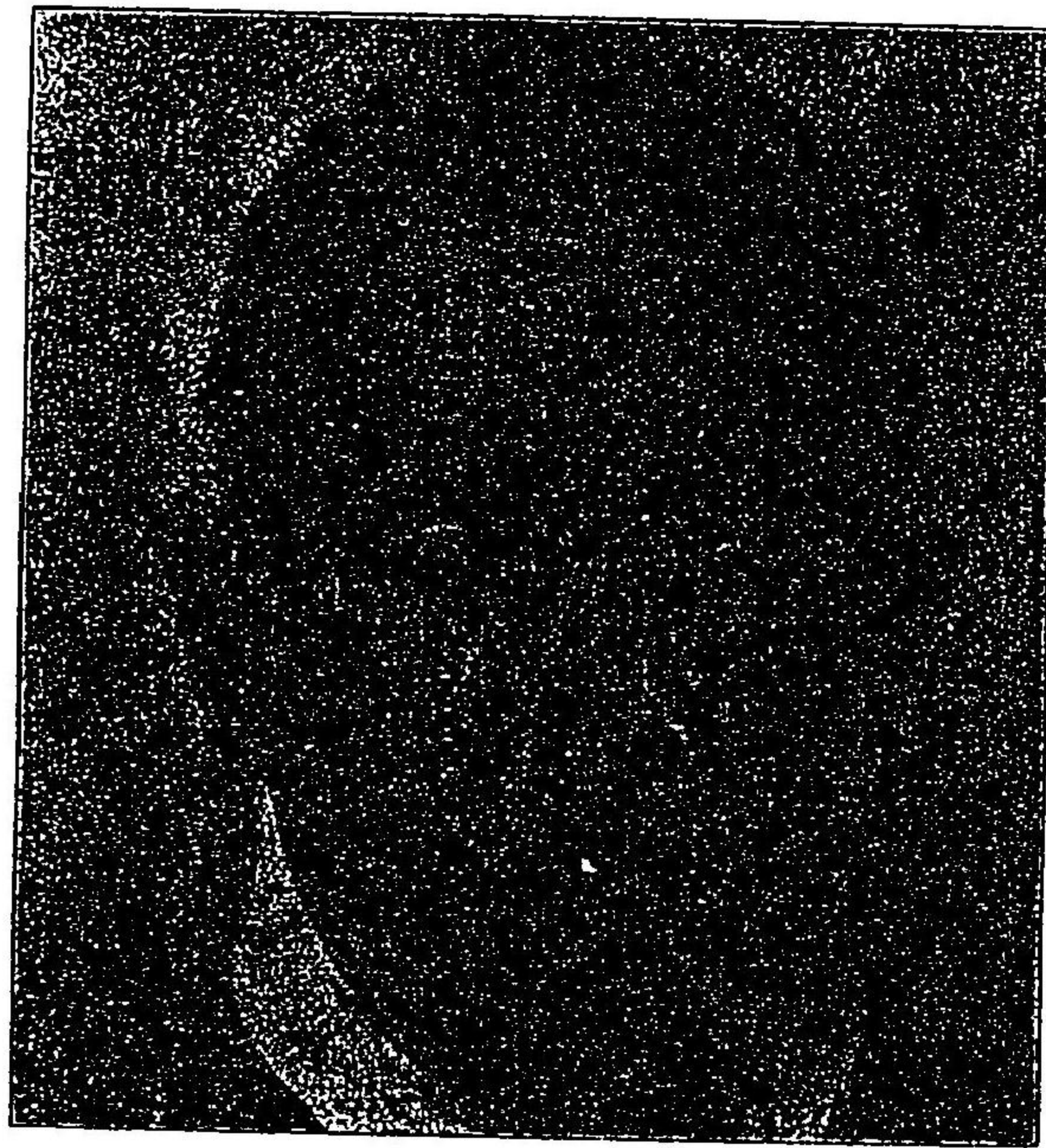
## 酒皰及鼻瘤 *Rosacea et Rhinophyma.*

異名 酒皰性痤瘡 *Acne rosacea.*

定義 酒皰トハ血管ノ擴張ニヨリテ生スル顔面ノ潮紅ニシテ、脂腺及真皮ノ肥大ヲ續發ス、

症候 顔面ニ於テ限局性或ハ散漫性ニ發赤シ、或ハ鮮紅ニ或ハ暗紅ニ、且ツ寒暖ノ著シキ變化ニヨリ又ハ醉飽ノ後ニ於テ著色殊ニ濃厚ナリ、之ヲ酒皰第一度 (*Rosacea I. Grades*) トナス、皮脂ノ分泌常ニ著シ、

第一圖



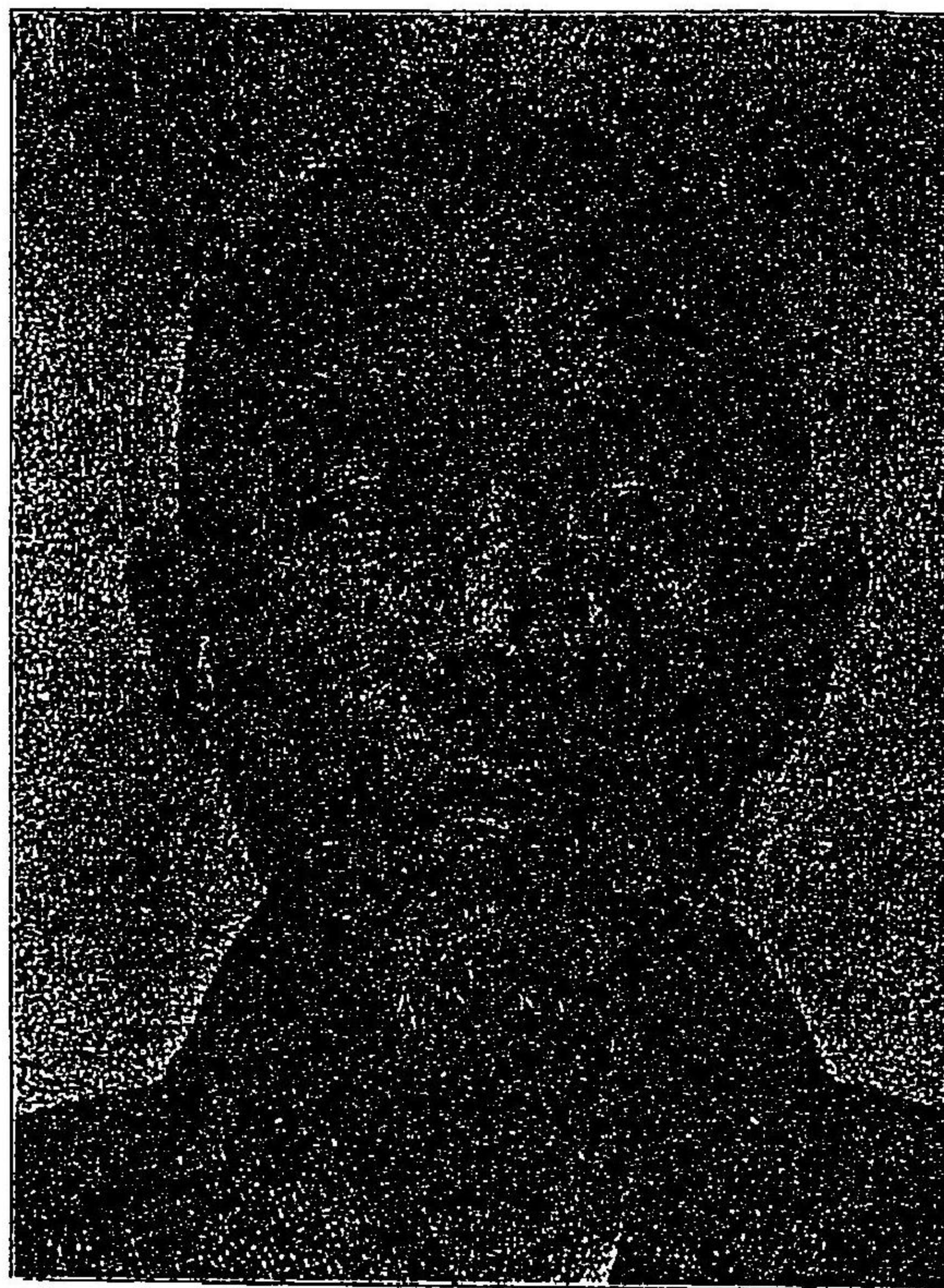
本患者者四十七歲、酒皰明治三十七年三月外來名簿一五一五號

此潮紅ハ皮膚血管ノ擴張ニヨリテ生スルモノニシテ、明カニ之ヲ視別ケ得ヘシ、大抵其部ニ面皰及ヒ痤瘡ヲ併發スルコト多シ、是レ酒皰性痤瘡ノ稱アル所以ニシテ、實ニ酒皰第二度 (*R. II. Grades*) ナ成スモノナリ、

(日本皮膚病雜誌附錄第三十九卷圖解)

鼻瘤トハ即チ酒皰ノ最高度第三度 (*R. III. Grades*) ナルモノニシテ、必ス鼻尖ニ生シ、皮膚肥厚シテ大小結塊ノ狀ヲ呈シ、累々下垂シテ口唇ヲ掩フニ至ル甚シキハ肥厚ノ鼻根ヨリ延イテ眉間并ニ頰邊ニ及フコトアリ、其質ハ柔軟ニシテ重ク、動モスレハ視界ヲ遮キリ又ハ口唇ノ運動ヲ妨ケ、且怪異ノ容貌ヲ呈スヘシ、

第二圖



同上第一回手術後

其他ニ自覺症候ナシ、

經過 緩慢ニシテ多年ニ互リテ益々著明トナリ、稀ニハ自然ニ消失ス、部位 鼻尖ニ來ルコト最モ多シ、故ニ酒皰鼻ノ稱アリ、又前額、頰邊及頤部ニ生ス、

解剖 乳頭ノ血管擴張シ、脂腺輸出管ノ細胞ハ角化シ、脂腺ハ著シク肥大スルモ、一ニ大家ノ説ノ如ク腺腫ヲ作ルモノニ非ス(土肥)但シ脂腺ハ炎性浸潤ヲ呈シテ間、膿潰シ、終ニ癩痕組織ニ變スルモノアリ、而シテ高度ノ酒皰ニアリテハ真皮結締織ノ慢性浮腫及ヒ肥大



新生極メテ著明ナリトス、

原因 一樣ナラス、酒釀ハ往々處女并ニ婦人ニ多ク、生殖器機能(月經不調、更始期、妊娠并ニ子宮病)ト關係アルモノ、如シ、其他男女共ニ消化機障害慢性胃加答兒胃擴張、常習便秘、貧血、萎黃病等ニ伴フコトアリ又酒家ニ多シ、殊ニ鼻癩ハ歐洲ノ如キ寒帶地方ニ於テハ途上往來ノ際屢之ヲ目撃スルモ、我國ニ在リテ甚々稀ナリ、  
診斷 潮紅ノ部位一定シ、表面ハ平滑ニ或ハ微ニ落屑シ又ハ瘡瘡ヲ有スルノ外異常ナシ、鼻癩ハ隆起シテ柔軟ナリ、潰瘍ヲ生セス、自覺症ヲ缺ク、

類症鑑別

鼻硬腫 Rhinoscleroma 鼻硬腫桿菌ノ爲ニ起ルモノニシテ、鼻孔ヨリ發生シテ咽喉ノ粘膜ニ及ヒ、其質極メテ硬固ニシテ柔軟ナラス、尋常性狼瘡 Lupus vulgaris 潰瘍アリテ痂皮ヲ生ス、狼瘡疹アリ、護膜腫 Gumma 亦潰瘍ヲ呈シ易ク、且ツ周圍ノ浸潤硬クシテ之ヲ壓スレハ疼痛アリ、

紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus 中心必ス癩痕樣萎縮ヲ呈ス、

濕疹 Eczema 潮紅散漫性ニシテ、丘疹アリ小水疱アリ又ハ濕潤面ヲ呈シ、且ツ痒痒著シ、

豫後 適當ノ療法ヲ持長スレハ治癒シ得ヘシ、

療法 輕度ノモノハ勉メテ原因ノ除去ヲ圖リ、局處ニハ亂切法又ハ電氣分析法ヲ試ムヘシ、鼻癩ハ切除縫合スヘシ(第二圖)外用藥ニハ

硫黃劑、いひちをーる、ちげのーる等ヲ可トス、近時余ハちげのーる硬膏ヲ作り、好テ酒釀性瘡瘡ニ貼用ス、

處方

硫黃乳

樟腦精

一〇

刺賢瑤兒精 各三〇

香水 各三〇

縮水 各三〇

右振盪後塗布毎夕一回

硫黃華 各二〇〇

加里石鹼精 各二〇〇

百露拔爾撒謨 各二〇〇

樟腦 各二〇〇

杏仁水 各五〇

刺賢瑤兒精 各五〇

右沈澱ヲ取り毎夕塗布

硫黃華 一〇〇

亞刺比亞護謨 各五〇

樟腦 一〇

石灰水 各一〇〇〇

縮水 各一〇〇〇

右クンメルフルド氏液、用法同前

いひちをーる又ハちげのーる 各三〇

酒精 三〇〇

右塗布一日一回

ちげのーる 各五〇

硫黃華 各三〇

亞鉛華 各三〇

刺納林 各三〇

華羅林 各一五〇

右塗布

ちげのーる(いひちをーる) 一〇

水楊酸石鹼硬膏 一〇〇

右ちげのーる(いひちをーる)硬膏(土肥)





酒 鼓 鼻 癩  
*Rosacea*  
*et*  
*Rhinophyma*



日本成實地畵圖第六卷印刷

明治三十八年九月十八日印刷  
同 年九月廿二日發行

(正價金參圓)

著者 土肥 慶太郎  
東京市神田區神田銀治町二十二番地

發行者 大柴 四郎  
東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷者 野村 宗十郎  
東京市神田區神田銀治町二十二番地

發兌元 朝香 屋齋店



